

造影 CT 検査に関する説明書

造影 CT 検査とは？

- ・造影剤という薬を腕の血管から注射をし、撮影することで病変を見易くする検査です。
- ・造影剤を使うと、体の中がはっきり写り、より正しい診断につながります。

造影 CT 検査の偶発症

1. 造影剤の注入を急速に行った場合、注射の部位に痛みや漏れを生じることがまれにあります。
2. およそ 50 人に 1 人 (2%) の確率で吐き気や動悸、頭痛、かゆみや発疹などが起こります。
3. およそ 2,500 人に 1 人 (0.04%) の確率で、呼吸困難、意識障害、血圧低下、ショックなどの重篤な副作用が報告されています。なお、極めて稀で頻度は不明ですが、各種の処置や治療にもかかわらず、副作用により死亡に至った例も報告されています。
4. 検査後、30 分から 1 週間の間に吐き気、頭痛、発疹などが起こることがあります。症状が続く際は、病院へご連絡ください。
5. 腎機能が低下している場合に、透析が必要な腎不全が起こることがあります。
6. ビグアナイド系の経口糖尿病薬を飲んでいる方に、まれに乳酸アシドーシスという重篤な副作用が起こる場合があります。

検査前後 2 日間休薬することで、副作用を回避することができます。

不明な点や質問がありましたら、遠慮なくご連絡ください。

連絡先

長野市民病院 TEL 026-295-1199 (代) 平日 8:30~17:00

CT 検査室